



六甲山のブナ

第1回テーマ： 六甲山のブナについて

講演内容

- 1：ブナを植える会の紹介
- 2：ブナの樹とは
- 3：ブナを通して多くの人との出会い
- 4：六甲のブナへのかかわり
- 5：六甲山ブナ林の保全増殖
についての私見

実施日：平成15年4月19日（土）
午後1時～4時
場所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



講師：松井 光利さん

プロフィール

昭和11年1月20日生まれ
サラリーマン歴40年
現在、ブナを植える会 副会長
日本自然保協会・自然観察指導員登録・ひょうご森の倶楽部・森林ボランティア（親林派）登録

風雨の六甲山でストーブを囲む

六甲山上は濃霧に加えて風雨が激しく、傘もさせない風雨の中を熱心な参加者が18名集まりました。定刻に開始し、ストーブで暖を取りながら進行了しました。

トップバッターは「六甲山のブナ」

「六甲山魅力再発見市民セミナー」を月例で定期開催しました。無期限で地道に継続を重ねて、講演記録は「六甲山魅力再発見ガイド」としてまとめる予定です。第1回市民セミナーは、100年～200年後の六甲山を考えて、六甲生まれのブナを植樹されている、「ブナを植える会」の副会長で通称ブナおじさんと親しまれている松井光利さんをお願いしました。「ブナを植える会」からは立派な看板をご寄贈いただき、前途を祝していただきました。

「六甲山の豊かな自然？に親しみ、楽しく語り合いましょう」

六甲山生まれのブナの種子の発見と苗作りから植樹。六甲山緑化植林の歴史を振り返りながら、六甲山の豊かな自然の中に親しみを見つけて、楽しみ方を話し合いましょう。（テーマについてのメッセージ）

VTRでブナの生態に感動

ブナを熟知している方から、六甲山もよく知らない方まで様々。世界遺産で有名な白神山地のブナの四季や、六甲山のブナの植樹でブナを植える会の活躍ぶりがVTRで紹介されました。自然のバロメーターと言われるブナの醸し出す雰囲気誘い込まれました。

雪崩遭難防止で「ブナを植える会」が発足

昭和5年のハチ高原スキー場での雪崩遭難事故の50周年に、皆伐されているブナ林を目にした仲間がブナを植えていくことを決意し、ブナを植える会を結成しました。以来24年、但馬や六甲山で11000本以上のブナを植林しています。

六甲山にブナを植える、熱い思い

六甲山頂部にはブナとイヌブナの天然林が100本前後残っています。樹齢100～200年くらいで後継樹となるはずの種子、実生苗、若木も見あたらず、絶滅が危惧されていました。しかし、平成5年秋に「六甲ブナ」として初の実入りの種子が松井さんたちによって大量発見され採取されました。六甲生まれのブナを植えて、100～200年後には六甲山にブナ林を実現したい、という松井さんのライフワークが始まったわけです。



六甲山自然保護センター

主催：六甲山自然保護センターを活用する会

後援：兵庫県神戸県民局

兵庫県立人と自然の博物館

テーマ：六甲山のブナについて

第1回市民セミナーの流れ

1. 市民セミナー開催の主旨説明

六甲山に活力を取り戻す活動の拠点として「県立六甲山自然保護センター」を有効活用しましょう。市民セミナーを継続開催することによって六甲山上に市民の関心を集めて行きます。皆さんの積極的なご協力を期待します。（堂馬英二さん）



セミナーの準備風景

2. 講演

①あいさつ

②VTR鑑賞：13：10～13：40

③講演内容：13：40～14：30

④質疑応答：14：40～15：20

講演やVTR鑑賞での質疑応答

3. 懇談会（提案）：15：30～16：00

1. 講演のあいさつ(松井光利さん)



松井光利さん

今回のセミナーで、六甲山生まれのブナの種子発見と苗作りから植樹を通して、六甲山緑化植林の歴史を振り返ります。六甲山の自然に興味を持つきっかけ作りを目指しました。

2. VTR鑑賞

参加者の中には「ブナの木」についてご存知ない方もおられたので、ブナの講演に先立ってVTRで視覚的に「ブナの木」を印象付けられたことは、講演を通して「ブナの木」を慈しむ気持ちも深まるのではないかと思います。

ブナにからんだVTR（テレビ放映された数編を松井講師が録画編集したもの）を鑑賞しました。

- ・「ブナ」～『白神山地 命育てる森』
- ・『六甲山のブナ』→山頂付近に100本、絶滅が心配
- ・『和泉葛城山のブナ』→大阪みどりのトラスト協会
- ・『六甲山で一番立派なブナ』
→200年以上、「根性ブナ」と命名



VTRを鑑賞中の様子

3. 講演内容

六甲山生まれのブナの種子の発見と苗作りから植樹。六甲山緑化植林の歴史を振り返ると共に、今後の六甲山ブナについても考えました。

◆要旨

ブナの起源：

ブナの木は縄文時代からの生き残りの樹木であります。

ブナ林帯：

山の8合目から上の「深山、奥山」と呼ばれる人が踏み入ることを戒めてきた処にあります。

「ブナを植える会」結成動機：

昭和5年のハチ高原スキー場での雪崩遭難事故にあります。50周年に当たる昭和55年に集まった当時の仲間達が遭難現場周辺のブナ林が開発のために皆伐採されていたのを見て「皆でブナを植えて行こう」と「ブナを植える会」を結成しました。

ブナを植える会連絡先

所在地：神戸市兵庫区和田山通 1-2-25 D102

TEL：078-652-7624 FAX：078-652-7625

HP：<http://www.bunawouerkai.jp>

ブナは役に立つ！



ブナの語源を解説

六甲のブナ林：

六甲山でブナやイヌブナの生えているところには人手の加わらない原自然が残っています。

アカマツ、ヤシヤブシ、ニセアカシヤ等の砂防林で緑を回復させたとされている六甲山系にも小規模ながらもブナとイヌブナの天然林が残っております。しかしそこには、樹齢100～200年位で直径20cm～80cm位のものが大小合わせて100本前後しかなく、後継樹となるはずの種子、実生苗、若木も見当たらず早晩絶滅するのではないかと危惧されていました。

六甲ブナの植林：

ところが幸いなことに平成5年秋に「六甲ブナ」として初の実入りの種子が大量発見され採取することができました。

採取した種子は『神戸市立森林植物園』、『人と自然の博物館』等に送り、大勢の有志でブナの苗木作りに挑戦して、六甲ブナ初の苗木が4～6年かけて育ち始めました。

平成10年～12年の3年間に六甲山上の旧極楽茶屋周辺の市有地に六甲ブナ初の実生苗150本を植樹することが出来ました。また平成14年には六甲山最高峰頂上に六甲ブナ10本を植樹しました。

六甲ブナの育樹：

今後「六甲ブナ」の苗の苗木の成長を助けるために、下草刈りやりやツル切り等の育樹作業を続けていかなければなりません。

六甲のブナ林の増殖拡幅：

豊かな自然の象徴である「六甲のブナ林」の100年～200年先を見据えて、兵庫県民、神戸市民の財

産ともいえる『六甲のブナ林』の保全増殖に向けて皆さんと共に残し伝えていきたいと願っております。



米村・尾崎さん



遠井さん

4. 質疑応答

講演やVTR鑑賞での質疑応答

※回答要旨のみ

- ・ブナの苗木成長は3年で10cm位になる。(松井)
- ・ブナの種子は笹の上に落ちると地面に届かないので駄目。(松井)
- ・米が凶作の年はブナの種子が豊作のようで、平成5年は東北地方が冷害となり六甲ブナの種子は豊作であった。この周期は7～8年に1回。(松井)
- ・ブナの育成適温は最高25℃。六甲山頂にはブナ林を再現できるかもしれない。(米村)
- ・六甲山は混植が多く、ブナは他の木に負けてしまうかもしれない。(米村)
- ・樹木の種は6万のうち育つのは1個。(米村)
- ・ブナの芽は、最初は貝割れ大根と同じ双葉。雪が多くて湿潤な所が凍りつかなくてよい。(松井)



竹内さん



近藤さん



富士水さん



長田さん



都築・数井さん



河本さん

◆配布資料：

- ・「六甲山自然保護センターを活用する会」の挨拶文
- ・六甲山魅力再発見市民セミナー第2回案内パンフレット
- ・「ブナを植える会」活動紹介資料

松井さん手作りブナの→
絵葉書もプレゼント



◆懇談会（提案）：

自然保護センターを使った感想や今回のセミナーに対する意見が活発に発表されました。そのような盛況の中、16時になり第1回セミナーを閉会しました。

◆参加者：18名（順不同・敬称略）

松井 光利	米村 邦稔	鈴木 英之
河本 昌子	小野 律子	黒田 健次
都築 純子	数井 郁子	重野遊佐子
富士水英一	遠井 方子	尾崎 尚子
長田 英利	藤井宏一郎	近藤 佳里
堂馬 英二	戸田 清彦	山内 邦子

アンケートの集約

参加者にお願ひしましたアンケートの結果を集約してご報告します。

設問1 - ①講演会についてのご感想

- ・講師がやさしく語るブナの話に満足
- ・ブナへの思いを新たにしたい
- ・ブナの木の前で話を聞きたい

設問1 - ②懇談会についてのご感想

- ・活発な意見交換がありよかった
- ・今後の活動が楽しみ

設問2 当センターをご利用になった感想

- ・資料が貧弱。此处にあれば六甲山がよく分かるようになればうれしい
- ・場所の標記を分かり易くして欲しい
- ・世代間交流の場として生かして欲しい

設問3 「六甲山自然保護センターを活用する会」に対するご意見・ご要望

- ・静かな自然の中の環境を活用する活動をして下さい
- ・子供、幼児、主婦まで幅広く利用しやすい会にできればと希望します
- ・六甲の自然について色々教えて下さい

記録：藤井宏一郎